

一 福田正夫年譜

明治廿二年の春、和列中野十子と同日  
日野塚の如才多羊の酒多飲のため  
めに狂して御厨屋在(御厨場所)に  
上の裾野にかくれ、病を養ふ。孝政子  
同年、……その時出来たるか五月かの正  
夫である。明治廿三年三月せらるる生。

幼年より狂暴、七才の時既に大特をらん  
か大盗賊とまらんかいつか二つと思ふ。手  
癖が悪く、泣き虫にてよく、学を休む。  
出まの頃より堀向家の女運信まはじめ、長  
男如三、次男才次、三男才郎等皆ましま  
に生く。

明治廿四年十一月廿五日、父堀向如才死す  
。兄弟四散、堀向一家多難、九村の夜は  
父の黒母弟たる堀向の道吉に引き取られ  
父の死後一月前、東京府下羽野、出岩  
町なる大徳の島居に行く。父の死に逢はるか

〔東京文部省製〕

出席

初正夫

缺席

住所

芳名

初正夫